

知的財産教育研究・専門職大学院協議会

夏期知的財産連合英語セミナー2016

-「特許実務家コース」-

日 程： 2016年8月29日～8月31日
会 場： 東京理科大学（ポルタ神楽坂・5階）

【主催】 知的財産教育研究・専門職大学院協議会（JAUIP）

「実務家コース」開講のご案内

- 当協議会は、すべて英語による夏期知的財産連合セミナーを毎年開催しております。これはわが国の知財系大学院が協力して、アジア・新興国の知的財産高度専門人材の育成を推進するために開催するものです。
- 実務家コースでは、日米の特許性要件、出願手続、紛争解決などの特許実務に必須事項を比較法的に学んでいただきます。このコースの特徴は、グループワークによる、課題解決の取り組みです。
- このプログラムは、講義・教材すべてが英語で行われます。そのため、国際派をめざす特許実務者にとっては英語力を鍛える絶好の機会になると思います。なお、講義およびグループワークは実務に直結したコンテンツとなっていますので、3年以上の知財分野での実務経験をもつ人が参加できます。

＜コースの案内＞

- 期日： 2016年8月29日（月） - 8月31日（水）※全日程参加要
- 会場： 東京理科大学・ポルタ神楽坂5階（P51教室）
- 費用： 70,000円 （定員40名）※PPTスライドが利用可能なノートPCを持参してください
- 言語： 英語 （問い合わせは、summer-seminar@jauip.org）
- 担当： ＜実務家コース＞ 藤野仁三（前東京理科大学専門職大学院教授）

参加申込み

- 参加希望者は、参加申込書および略歴書（英文1枚以内）をJAUIP事務局まで送付してください。
 - JAUIP事務局e-mail: summer-seminar@jauip.org
- 申込書の受領後、事務局からご連絡いたします。
- 受講料は当日現金払いでお願いいたします。
（銀行振込をご希望の方はご相談ください）
- なお、参加要件を満たさない場合には、参加をお断りすることもありますのでご了承ください。

コース・スケジュール

	8月29日(月)	8月30日(火)	8月31日(水)
	受講受付 (9:30 - 10:00)	受講受付 (9:30 - 10:00)	受講受付 (9:30 - 10:00)
午前	<講義(1)> 知的財産制度の未来 - 国際的視点 (10:00 - 12:00) 宮本智子(WIPO特許法課課長)	<講義(2)> 日米欧の出願実務 (10:00 - 12:00) ロン・ハリス(米国弁護士) 市川英彦 (弁理士)	<講義(3)> 貿易関連の知財問題 (10:00 - 12:00) 趙 喜京(韓国弘益大学)
昼休み	12:00～13:30	12:00～13:30	12:00～13:30
午後	<グループワーク(1)> 実践特許情報検索 (13:30 - 15:30) 野崎篤志 (ランドンIP)	<グループワーク(3)> クレーム・ドラフティング(第一部) (13:30 - 15:30) 奥山尚一(弁理士) 黒田 薫 (弁護士・弁理士) 田中 祐 (弁理士)	<グループワーク(5)> 日米の紛争処理実務 (13:30 - 15:30) 村田真一(弁護士) 吉田直樹(弁護士)
	<グループワーク(2)> 海外知財ライセンス (16:00 - 18:00) 二又俊文 (東京大学) 木村晋朗 (弁理士)	<グループワーク(4)> クレーム・ドラフティング(第二部) (16:00 - 18:00) 奥山尚一(弁理士) 黒田 薫 (弁護士・弁理士) 田中 祐 (弁理士)	<模擬交渉> FRANDライセンス契約 (16:00 - 18:00) 荻野 誠 (東京理科大学) 原嶋克巳 (太陽国際特許事務所) 原 豊 (アドバンテストソフトマテリアルズ) 小林 亨 (月島機械)
	懇親会 (18:30-20:30)	—	修了式 (18:00 - 18:30)

実務家コース：講義

➤ 講義（Day 1）

➤ 特許制度の未来－国際的視点

- 本講義では、近年の特許制度に関する国際的な議論の進展を概観するとともに、WIPOにおけるいくつかの取り組みを紹介する。また、内国特許法制、二国間協定、多国間協定、国際条約といった複雑な背景のもとに展開されているノーマティブ・ワークの政策的・法的・実務的側面を考察し、今後の多様な国際協力の可能性を検討する。

➤ 講義（Day 2）

➤ 日米欧の特許審査実務

- 本講義では、PCTルートとパリ条約ルートによる外国特許出願およびその要件を検討する。そして、出願人と審査官との間の面談プロセスについて検討し、審査官面談の影響について考える。また、特許審査の過程で特許審査官が提起する典型的な課題についても検討する。

➤ 講義（Day 3）

➤ TRIPS協定下での知財権の執行

➤ ー法律的・戦略的な観点からー

- この講義では、WTO/TRIPS体制の下で発生し、WTO紛争処理機関（DSB）によって処理された紛争事例を概観する。また、企業の事業目的のため、どのようにWTP/TRIPS協定を利用するのが戦略的であるかを検討する。最初に、紛争解決手続に係る規律であるDSUを利用したWTO/TRIPS関連の紛争事例を概観する。DSBの判断が示された知財関連の重要事案についてはより詳しく検討する。その後、競争市場での障壁をなくし、事業を行うさまざまな市場で権利を適正に保護するために、企業がTRIPS協定をどのように利用するのが実務的かつ戦略的であるかについて検討する。

実務家コース：グループワーク

➤ グループワーク（１）

➤ 実践特許情報検索

- この講座では、最初に特許情報検索の基本的事項について講義し、その後、受講者を幾つかの小グループに分け、実際にPCを使ってヨーロッパ特許庁データベースEspacenetを用いた情報検索作を行ってもらいます。この講義では、実際にインターネットにアクセスして課題に取り組むため、受講者はPC持参が求められます。

➤ グループワーク（２）

➤ 海外知財ライセンス交渉

- 事業戦略の実現のためには、競争環境のグローバル化の中で多様なプレーヤーとの知財交渉が欠かせません。最新の交渉論にもとづき、実際のビジネスケースを使ったロールプレイをチーム対抗で行います。交渉における準備段階と交渉遂行段階に分けて、それぞれでの重要なポイントを実践的に学びます。

➤ グループワーク（３）＆（４）

➤ クレームドラフティング（第１部、第２部）

特許保護の範囲は特許のクレームによって決まる。特許クレームの作成は一つの特別な技術で、習得するには3年から5年かかると言われている。画家のデッサンに似ている。構造主義だろうと抽象派だろうと伝統的なデッサンが基本である。特許訴訟の専門家や特許管理者になろうとするのでも、ライセンスの専門家、もちろん出願手続の専門家になる上でも、クレーム作成の技能は必須である。そのハードルになるのは、特許、特に特許クレームに使われる文法、守るべき決まり、用語が普通のものとは全く異なっている点である。この不思議な特許語の世界をのぞき見て、グループに分かれて実際の練習を試みる。

実務家コース：グループワーク

- **グループワーク（５）**
- **日米の特許紛争処理**

- 日米の特許紛争処理体系はよく発達し、世界でも先進的なシステムとして知られています。とは言え、日本の特許訴訟には特異な特徴もあり、その幾つかは米国と大きく異なっています。この講義では、日本と米国での特許訴訟手続の要点を解説し、両国の訴訟手続上の特徴を比較法的に説明します。また、関税法に基づく水際手続や代替的紛争処理（ADR）についても取りあげます。

- **模擬交渉**
- **FRAND特許ライセンス**

- 経験豊富な担当者が模擬の特許ライセンス交渉に臨みます。ライセンシーは、ライセンス対象である標準必須特許に「公正、妥当なかつ無条件の」ライセンスを提供するとの宣言がなされていることを理由に提案されたロイヤリティが不当であると主張します。それに対して特許権者は、ライセンス条件で折り合いがつかない場合には訴訟も辞さないとライセンシーにプレシャーをかけます。この模擬交渉を通じて、FRAND宣言をめぐる今日的な問題点を明らかにし、併せて特許ライセンス交渉の雰囲気を実験していただきます。

講師プロフィール

講 義



宮本 智子

世界知的所有権機関（WIPO）特許法課課長。特許庁審査官、国際課勤務を経て1997年より世界知的所有権機関（WIPO）所属。ノーム・セッティングや途上国への人材育成・アドバイスをはじめとして特許政策・法律・実務にわたる広範な領域に従事。電気工学修士。LL.M (IP law and management)。



趙 喜京

韓国・弘益大学教授。知的財産法および国際取引法を担当。オーストラリア最大手の法律事務所で知財訴訟弁護士を経て、世界的なメディア会社の企業内弁護士としてシドニー、東京、ロンドン、ブリュッセルなどに赴任。EU委員会やEU議会でロビー活動を経験し、WTO紛争処理手続きにも参加。米、英、豪の法曹資格をもつ。メルボルン大及びケンブリッジ大卒。



市川 英彦

弁理士。アンダーソン・毛利・友常法律事務所所属。電気、電子、通信、機械、半導体、コンピュータ及びソフトウェアなどに関連する特許出願、審判事件を担当。ボーダフォン株式会社の勤務経験あり。



ロン・ハリス

米国弁護士。ロン・ハリス弁護士の日常業務は、世界における特許出願および中間処理であり、あらゆる技術分野で出願のためのアドバイスを提供している。また、特許法のビジネスに与える影響についての法律アドバイスを提供している。

講師プロフィール

グループワーク (1) & (2)



野崎 篤志

慶應義塾大学大学院理工学研究科およびK.I.T.虎ノ門大学院ビジネスアーキテクト専攻修了（工学修士・経営情報修士）。日本技術貿易・IP総研を経て、現在ロンドンIP・シニアディレクター（日本事業統括部長）。知的財産権のリサーチ・コンサルティングや、経営層から実務者まで幅広い層への知財研修・教育業務に従事する傍ら、ウェブサイトe-Patentやメールマガジンなど複数の情報発信メディアを運営。著書に「特許情報分析とパテントマップ作成入門」、「特許情報調査と検索テクニック入門」（発明推進協会）などがある他、論文・寄稿多数。



二又 俊文

パナソニック知財部門からイタリア知財管理会社Sisvel日本法人代表を経て2012年より現職。グローバルIPストラテジスト2015（IAM300）。特許庁グローバル人材育成プログラム、東大戦略タスクフォースリーダー育成講座講師。三菱総研客員研究員



木村 晋朗

弁理士。インフォート国際特許事務所所属。国内メーカーの技術者を経て、国内企業および海外企業における特許ライセンスを担当。2012年より現職。知的財産権の取得から、ライセンス交渉の準備及び交渉代理、知財戦略策定、価値評価、ロイヤリティ監査などによりクライアントをサポートしている。

講師プロフィール

グループワーク (3) & (4)



奥山 尚一

弁理士、久遠特許事務所代表
AIPPIジャパン副会長
日本弁理士会前会長
内閣府知的財産戦略本部員
FICPI主催EURO-SEAD特許作成
コース指導員



黒田 薫

弁護士（日本国・ニューヨーク州）
阿部・井窪・片山法律事務所パートナー
Kirkland & Ellis法律事務所客員弁護士
（2012年3-9月）
レーダー前連邦巡回区控訴裁判所(CAFC)
長官のインターン（2011年8月-2012年1月）



田中 祐

弁理士。久遠特許事務所所属。電気、通信、ソフトウェアなどに関する国内外特許出願の明細書作成、拒絶理由通知対応、審判事件を担当。特許実務に携わる前は、日本ヒューレット・パカード株式会社にて携帯電話事業者向け情報システムの開発経験を有する。

講師プロフィール グループワーク (5)



村田真一

兼子・岩松法律事務所
パートナー、弁護士
第二東京弁護士会所属
ニューヨーク州弁護士会登録



吉田直樹

フィネガン・ヘンダーソン法律事務所
東京オフィス筆頭パートナー
コロンビア特別区、ニューヨーク州及び
合衆国連邦巡回控訴裁に登録
東京第一弁護士会所属

講師プロフィール

模擬交渉



荻野 誠

東京理科大学イノベーション研究科教授、
日本ライセンス協会次期会長



小林 亨

月島機械株式会社
企画・管理本部 法務部長



原嶋 克巳

太陽国際特許事務所理事、
日本ライセンス協会元会長



原 豊

アドバンスト・ソフトマテリアルズ株式会社理事
日本ライセンス協会会員

アクセス（東京理科大学 ポルタ神楽坂）

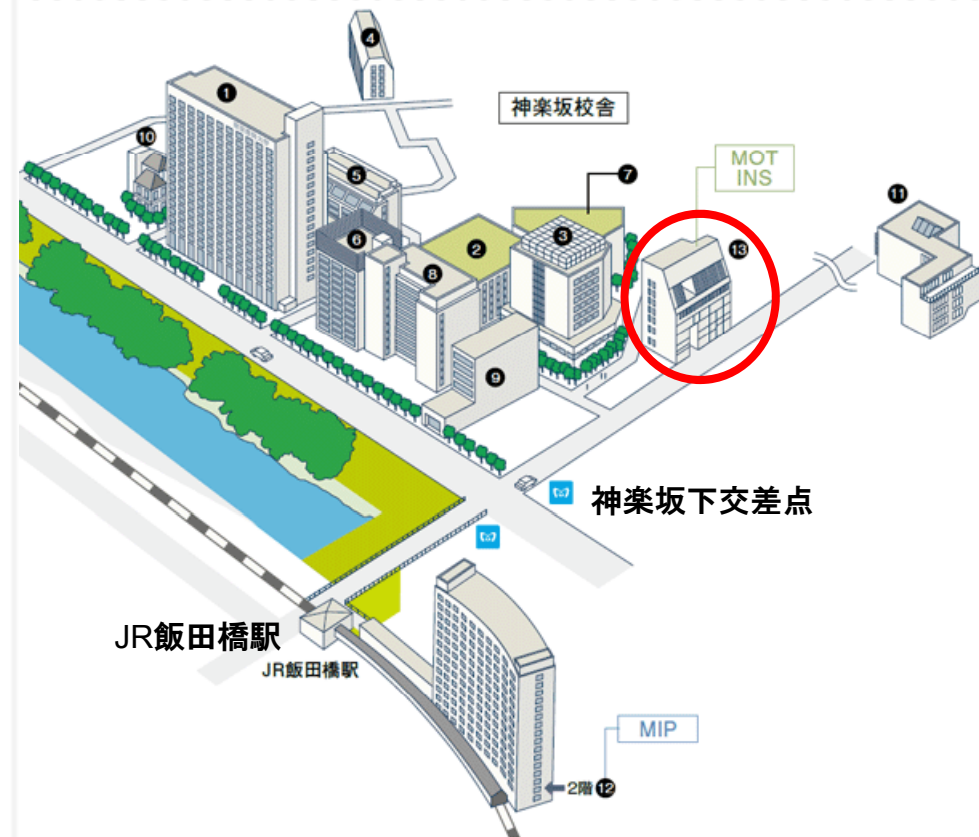
東京理科大学 ポルタ神楽坂

（東京都新宿区神楽坂2-6）

<http://most.tus.ac.jp/mot/summary/>

- ◆JR総武線、地下鉄有楽町線・東西線・南北線・大江戸線 飯田橋駅 徒歩1～3分

レストラン サイゼリヤが地下1階に入っている大きな門のような形をした建物です。門の間を入ると左側にエレベーターがあります。



お問い合わせ



- **知的財産教育研究・専門職大学院協議会**
Japan Association of Universities for Intellectual Property Education and Research (JAUIP)
- **お問い合わせ**
知的財産教育・研究専門職大学院協議会事務局
東京都千代田区飯田橋4-25-1-12
セントラルプラザ2階
東京理科大学知的財産戦略専攻内
TEL:03-5225-6338
- **セミナーに関するお問い合わせ(E-Mail)**
summer-seminar@jauip.org
- **一般的なお問い合わせ(E-Mail)**
office@jauip.org